

ここに、報道バラエティーの危険性があるのです。

『え？報道バラエティーのどこが危険なの？』

何故危険かという、バラエティーならではの扇動的な番組作りによって、世論を簡単に誘導できてしまうからです。

最初の疑問を思い出して下さい。事件報道によって、無実の人を犯人だと思わされた経験はありませんか？テレビはその報道の仕方によって、ある人物がいい人なのか悪い人なのか、印象を操作できるのです。そしてそれは政治家においてもです。

最近、漢字の読み間違えでずいぶんとバッシングされている総理大臣ですが、何故テレビでしつこく叩かれるのか不思議に思いませんか？

『だって、漢字も読めないような総理大臣じゃ、困るじゃない？』

漢字の一つや二つ、誰だって読めない時もありますよ。それより、バッシングされる理由の方が気になります。

実は自民党は現在パチンコを潰すような政策を進めているのです。

『えー、知らないよ。そんなこと。』

当たり前です。パチンコ屋さんが大切な広告主であるテレビがそんなことを報道するわけが無いのです。そして、広告主さんが困るような法案を出してくる自民党を親の敵のように叩いているのです。

一方、民主党ってなんだかテレビに持ち上げてもらってるような感じしませんか？

『テレビ見ると「政権交代・チェンジ！」なんて、そんな気分になるよね。』

そう。マスコミ各社は民主党に政権を取ってもらいたいから、そんな雰囲気作りに懸命なのです。

テレビ局が電通を通して朝鮮企業や在日コリアンの言いなりになっていることはお話ししましたが、実は彼らにとって悲願とも言える政策を民主党は目標として掲げているのです。

それは「外国人参政権」です。日本には現在、在日コリアンたちは60万人ほどいると言われていますが、彼らは日本での参政権が欲しいのです。

『そんな人数が参政権を得ても、本当に政治を動かせるの？』

はい、地方行政ならこの人数で可能です。彼らの意を酌む議員が生まれたら、税や年金や生活保護、出入国での便宜など、在日コリアン達に有利に計らうことが出来るでしょう。だからテレビは、在日コリアンにとって都合の良い政策をしてくれる民主党の悪口などは言わないのです。

テレビでは本来、どの政党も公平に報道しなくてはいけないはずなんですけどね。

いかがでしたか？以上は【テレビの闇】のほんの一部分に過ぎません。

テレビにはまだまだ深い闇が広がっています。でも、だからと言って、テレビが必ずしもいつもウソをついているわけでも無いのです。

我々は、テレビが映し出すウソや偏向を見抜いていく力をつけなくてはなりません。今のテレビの現状を打破するには、我々一人一人が真実を見抜く目を養わなくてはならないのです。情報に接する時は、常に疑いの目を持ち、事実や本質を見抜く努力をして下さい。

さあ、今から始めて下さい。テレビの闇に光を照らす努力を！